

人生いろいろ，診療所もいろいろ

公益社団法人 熊本県精神科協会 理事 井形 朋英

精神科診療所は全国的には乱立傾向といわれています。平成8年時点で3,198施設であった精神科診療所は，平成23年には5,739施設にまで増えており，15年間で79%増加しているそうです。他科の診療所の動向からしても突出した増加率だそうです。この精神科診療所ですが，様々なバリエーションがあることをご存知でしょうか。一番コンパクトにやっているところは，受付などを担当する事務職員と院長のみです。これに，看護師がいる診療所もあれば，臨床心理士がいる診療所もあります。また，その両方がいる診療所もあります。最近ではもっと重装備で，ケースワーカーがいてうまく役割分担している診療所もあります。有床の精神科診療所は県内にはなくなりましたが，デイケアや訪問看護をやっている診療所もあります。複数の医師で複数の診療所を切り盛りしているところや病院のサテライトとしての診療所も県内に誕生しました。院長の専門として思春期を主に診療しているところもあります。

これら精神科診療所の最大の特徴は「身近で受診しやすい」ところではないかと思っています。「ひどくなる前に早めに受診しました」という患者さんも多くなっています。私の診療所では，愚痴や悩みを吐き出してスッキリして帰られる，処方なしの一回きりの患者さんが結構多いです。診察時間は比較的長くかかりますが，これも診療所の役割だと考えています。近所だからとか交通の便がいいからとの理由で，精神科病院を退院した患者さんを紹介していただくことも少なくありません。

最近，この最大の特徴の「身近で受診しやすい」ことが危機的な状況にあります。ほとんどの

診療所が新患を予約制としておりその予約がなかなか取れなくなっています。先日，私の診療所に来た患者さんが，「5件以上電話したけどどこも予約がいっぱいといわれてここが一番早く予約が取れたので来ました」と言われていました。うちが一番流行っていないのかと複雑な気持ちになりましたが，その当院でも，「今日診てもらえないか」というリクエストには，かなり高い確率で答えられていません。

精神科診療所は時間を切り売りする仕事だと私は考えています。一人に60分の診療時間を使うと1時間で一人の患者さんしか診られません，一人6分の診察時間だと10人の患者さんを診ることができます。生産性は10倍違います。いかに短い時間で情報収集して，見立てて，適切な治療をするか？かつ，患者さんの満足度を下げないか？これは精神科医に求められる重要な技術だと日々痛感しています。研修医の時にこのような視点での研修はなかったし，病院勤務時代はあまり考えたこともありませんでした。

話は変わりますが，日本の医師の平均寿命は一般の平均寿命のマイナス10歳だと言われています。真偽のほどははっきりしませんが，少なくとも一般寿命より短いことは確かのようなのです。この原因は，多くは過重労働に起因するものと考えられています。精神科診療所の諸先輩方を見ていると，期せずして病気で廃業された先生方はみなさん，患者さんにとっても人気があり，そのため，日々とても忙しく，非常にたくさんの患者さんを抱えておられた先生ばかりです。過重労働状態であったと考えられます。診療所に限らず精神科病院でも同様のことが起こっているのではないかと思います。

す。今年に入ってから、熊本市民病院精神科が精神科医長の急病で休診となりましたがこれも例外ではないと思います。

精神科ニーズは、急性期、救急や認知症、発達障害、児童思春期、種々の依存症、ストレス関連の精神障害など多岐にわたり拡大しています。はじめに書いたように全国的には精神科診療所は、増加の一途ですが、熊本では診療所の数は伸び悩

んでいます。限られた人的資源でこれらのニーズに対応するにもわれわれ精神科医の健康はとても大事なことであることは言うまでもありません。もっと精神科診療所も精神科病院のようにコメディカルの力を上手に活用していく必要があるかもしれません。熊本で新たな診療所が現れることを期待しながら、「身近で受診しやすい」精神科診療所を作っていきたいものです。

